

登壇園管理や保護者への連絡といった保育業務への情報通信技術(ICT)活用を進める一般社団法人保育ICT推進協会(西予市)が2021年9月に発足してまもなく1年になる。今年3月まで現役保育士だった三好冬馬代表理事(35)は西予市に、保育現場でのICT化の現状や課題を聞いた。

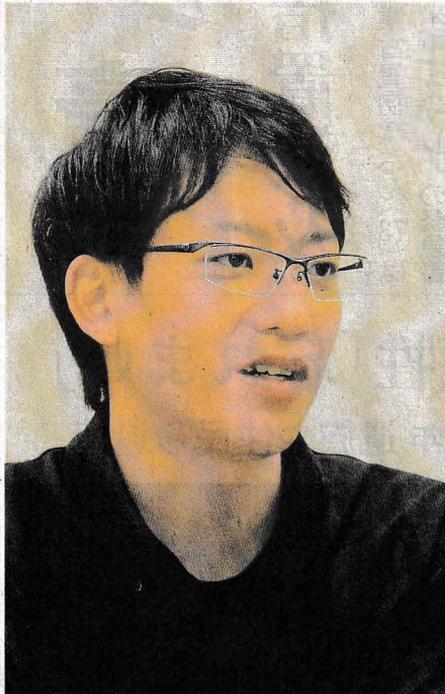
(聞き手・森口睦月)

保育のICT化とは。保育現場には、子どもと直接関わらない業務がたくさんある。登園時間や出席人数、園児の身体測定の結果など同じ情報をいくつもの書類に重複して書くなど、非効率なのに慣習として長年続いている作業も多い。ICT化で業務を軽減し、子

## キーパーソン Key Person えひめ

保育現場へのICT普及を目指す保育ICT推進協会代表理事

三好 冬馬さん(35)



みよし・とうま 1987年西予市生まれ。2007年から保育士。12年より当時勤務していた西予市内の保育園でICT化に携わる。20年から交流サイト(SNS)での情報発信を始め、21年9月より現職。

# 業務軽減 子との時間に

子どもの時間に専念することを目指している。活用のイメージは。

欠席や遅刻の連絡、持参品の確認といった必要な保護者との情報共有をアプリ上でしておけば、伝言ゲームのような先生同士の伝達や、登園時間に欠席などの連絡で鳴りやまない電話への応対といった負担が減る。先生と保護者が顔を合わせる際には、業務連

絡ではなく家庭や園での何げない様子を話せるようになる。

休憩が全く取れない保育士は多い。例えば昼食は、園児に食べさせながらだったり園児の食器を片付けながらだったりと慌ただしい。園児の昼寝中も体調確認や連絡帳の記入など休む暇はない。しかし、長年その環境にいるせいで現状の課題に無自覚なケースが

ある。

保育の質向上を目指す社会の流れもあり、私自身が保育士となった約15年前と比べて業務はかなり増加している。ICT化を機に業務を見直して時間と気持ちの余裕ができれば、子どもと向き合う時間や保護者とのコミュニケーション、休憩時間確保につながる。課題は、導入するだけで一気に

業務時間を短縮できるわけではない。システムを入れるだけだと、操作・管理業務の負担が単純に上乘せられるだけ。従来業務を見直す余裕やスキルがなく、タブレット端末で出欠管理を始めたにもかかわらず紙での管理も重複して続けている例もある。従来業務を壊し再構築することが必要。

今後の展望は。これまでは保育施設とシステム会社があるだけで、つなぐ役割がなかった。システム会社に言われるがまま導入し使いこなせていない園もある。ICT化は目的ではなく手段。ICT化でどういった保育を実現したいか考えることが大切だ。

解や苦手意識もある。タブレット端末を行政側が配布しても「インターネッ트에接続するのは危ない」と放置したり、貴重品として金庫にしまったりするほか、「保護者や園児と距離ができる」と敬遠する人もいる。

丁寧にヒアリングして最適なシステム会社の紹介や資料の準備、園内研修など必要な支援をしていきたい。国の政策による追い風もあり、ICT化に前向きな園が増えていけると感じる。愛媛を先進県としていきたい。

現在、保育園や認定こ